

歴史文化学科

Department of History and Culture

学びの内容を
知るための

10

のポイント



POINT

01

歴史と文化、日本と世界を横断した学びに対応する
充実した教員構成をとっています。

歴史分野



野口 朋隆（日本近世史）



松田 忍（日本近現代史）



毛利 英介（東洋史）



湯上 良（西洋史）



松山 周一（地理学）



三野 行徳（アーカイブズ学・日本近世史）

文化分野



鶴岡 明美（日本美術史）



永井 裕子（西洋美術史）



大谷津 早苗（民俗学・芸能史）



鈴木 伸哉（日本考古学）



村上 夏希（文化財保存科学）

客員教授 加藤 丈夫（前国立公文書館長）／ 徳川 家広（徳川記念財団理事長）

学科の最新の活動は、歴史文化学科ホームページや学科ブログでも紹介しています。



● 歴史文化学科HP

<https://www.swu.ac.jp/admission/event/>



● 学科公式Instagram

https://www.instagram.com/rekibun_official/



● オープンキャンパス情報

<https://www.swu.ac.jp/faculty/culture/rekibun/>

学びのイメージ

日本考古学ゼミに所属している
3年 佐々木 明日香さんの例



撮影：1年 大木ゆいかさん

大学では考古学を専門に学ぼうと考え、歴史文化学科に入りました。1・2年次に考古学基礎や環境考古学を履修し、夏の発掘調査にも参加することで、基礎知識の修得からフィールドワークでの実践まで行うことができました。また、高校時代に世界史を選択し関心を持ったため、西洋史も同時に履修しています。このように、学ぶ分野を1つに絞りすぎないことが幅広い学びにつながりました。

さらに、1年次から履修している教職課程の先生からセミナーを紹介いただき、中学・高校の先生方の話を直接聞いたことで、目指す教員像がより明確になりました。

現在は日本考古学ゼミに所属し、卒業論文執筆に向けた自身の研究テーマの追及とともに、より多くの知識を習得できるよう努めています。学科外では、タンザニアを支援するプロジェクトや、大学で募集しているボランティア活動に取り組んできました。自ら考えて、行動する積極性が身に付き、充実した大学生活を過ごしています。

POINT

02

初めて学ぶ分野でも学問の基礎から知識と方法を習得する仕組みがあります。また複数分野をまたがって学ぶマルチディシプリンを実現する環境があります。

1年生～2年生

◎概論科目で各分野の基礎知識を習得

考古学概論
日本古代史
西洋史概論

1年生～2年生

◎基礎・調査法系科目で学問の方法論を習得

考古学基礎
考古学実習
環境考古学

POINT

03

研究の基礎力を習得させる充実した学科必修授業がおかれています。

1年生～2年生

◎充実した必修授業で実践的な研究力を磨く

1年次 歴史文化基礎Ⅰ

2年次 歴史文化基礎Ⅱ

2年生～3年生

◎特論科目で研究の最先端を学ぶ

日本考古学特論

3年次 日本考古学演習（ゼミ）

4年次 歴史文化演習（ゼミ）

【その他の修得科目－佐々木さんの場合】

日本近世史／江戸時代論／西洋史史料解説／西洋中世史
西洋史特論 などその他多数

POINT

04

歴史文化に関わる選択科目が豊富に用意されており、組み合わせで履修することで、学びの幅は大きく広がります。

POINT

05

3・4年次の少人数ゼミでは、卒業論文（必修）を執筆します。研究の過程で、社会で必要とされる調査力、分析力、プレゼン力、文章表現力などを身に付けて卒業します。

卒業論文

POINT

06

様々な資格を取得でき、MLA 3 資格も取れる
全国でも数少ない学科です。

【取得できる資格】歴史文化学科では下記の資格を取得することができます。

学芸員／考古調査士(2級)／高等学校教諭一種(地理・歴史、公民)／中学校教諭一種(社会)／図書館司書・司書教諭／文書情報管理士(2級)／昭和女子大学認定アーキビスト(2級)／日本語教員(大学認定証)／社会福祉主事(任用資格※)

※任用資格とは公務員に採用された後、特定の業務に任用されるのに必要な資格です。



M 博物館
Museum

学芸員【博物館資料のスペシャリスト】

L 図書館
Library

司書【図書館資料のスペシャリスト】

A 文書館
Archive

アーキビスト【記録資料のスペシャリスト】

POINT

07

専門の学びを実践力とつなげる
豊富なプロジェクトがあります。

プロジェクト名	担当教員	活動の概要
江戸幕府日記刊行会	野口朋隆	「江戸幕府日記」を翻刻し(くずし字を読み)刊行する。
井関隆子日記刊行会	野口朋隆	昭和女子大学附属図書館所蔵「井関隆子日記」の現代語訳をしていく。
旗本荒尾家 アーカイブ・プロジェクト	野口朋隆 三野行徳	江戸幕府の家臣であった荒尾家に残された古文書を整理・写真撮影した上で、光葉博物館で企画展示を行う。荒尾家に関する史跡を訪問する。
光葉博物館デジタル アーカイブ・プロジェクト	三野行徳	光葉博物館の収蔵資料を整理・調査・撮影し、デジタルアーカイブを作って公開していく。
遺跡発掘調査	鈴木伸哉	遺跡の発掘調査。準備・運営、調査後の整理作業、報告書の作成。
世界の葡萄文化 プロジェクト	湯上 良	世界各地に見られる葡萄を軸とした文化的側面について、食物や景観、歴史の経緯、美術や宗教的観点、さらには各文化圏における葡萄そのものの位置づけについて明らかにする。
戦後史史料を後世に 伝えるプロジェクト	松田 忍	被爆者運動の史料をはじめとした実物の歴史史料に触れ、分析・研究し、発表する活動。学術展示や雑誌への投稿など様々な研究発表の機会がある。
民俗芸能の次世代継承 プロジェクト	大谷津早苗	若手伝承者の発表の場をつくり、技術的な研鑽を積み場をつくる。若手伝承者同士がお互いの発表を見学し、交流、意見交換のできる場を作る。一般の人々に民俗芸能を見て知ってもらう機会をつくる。
椎葉巡見プロジェクト	大谷津早苗	宮崎県椎葉村内の盆行事の民俗調査、椎葉神楽継承に向けての活動、調査報告書の発行。
東京・日本橋地域× 昭和女子大学 SDGs TERA KOYA(寺子屋) プロジェクト	大谷津早苗 鶴岡明美 太田鈴子	日本橋地域での環境や女性の活躍をテーマとし、持続可能な解決策を考案していく活動。

アーキビストと学芸員の資格取得を目指すにあたり実際に資料に触れて、デジタルアーカイブを作る過程を知りたいと思い参加しました。本プロジェクトは、さまざまな時代や地域のコインを中心に光葉博物館の収蔵品の整理、撮影を行っています。長期の休みにはコインだけでなく立体物の資料の3D化なども行います。普段の活動では資料の状態の記録を取り、スケッチをする際は細かい部分まで見ることで観察する目を養うことが出来ます。さまざまな学年の方が参加しているので学年を超えた交流の場にもなり、楽しく活動しています。
(2年 荒井保乃花 さん)



ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会が残してきた生の歴史史料を整理・保存・研究をしています。毎年秋桜祭で研究成果を展示しており、アーキビストや学芸員を目指す学生の実践的な学びの場となっています。2025年度は、日本被団協関連文書について研究してきた7年間の活動の集大成として書籍刊行を目指して活動中です。内容が難しく分析に苦戦すること多いですが、先生のご指導のもと、学生同士で助け合って研究を進めています。学年の垣根を越えて熱い議論を交わし、自分たちが展示を作り上げるやり甲斐と達成感はこのプロジェクトでしか味わえないと思います。
(3年 五十嵐文恵 さん)



グローバルな環境で歴史文化の学びを実現する 留学プログラムがあります。

昭和ボストンセメスタープログラム

留学がカリキュラムに含まれていない学科でも、「昭和ボストン」なら休学せずに1学期間（15週間）の留学が可能です。全て英語の少人数授業やフィールドワーク、寮生活などを通じて、語学力の向上はもちろん、新しい環境・異文化への適応力も養われました。ボランティア活動では人とのつながりの大切さを実感し、クラブ活動や一人旅にも挑戦。勇気を出して踏み出した一歩が、多くの出会いと学びをもたらしてくれました。「自分から動かなければ、何も始まらない」という気づきが、今の自分を支えています。かけがえのない思い出ができる貴重な機会です。（3年 岩瀬ななみ さん）



ヨーロッパ歴史文化演習A

2024年度のイタリアでの現地研修における西洋美術に関する学びはとて大きく、毎日のように絵画や彫刻などの解説を聞くことができました。この研修中に覚えた専門用語や知識、作品の題材となる物語なども多く、帰ってから家族に学んだことを共有することもできました。この研修で西洋美術史に更に魅力を感じ、本格的に学んでみたいと考えました。1年生の時点でこの研修に参加でき、とても有意義な時間を過ごすことができました。

（2年 村山晶 さん）



学科独自の充実した キャリア支援プログラムがあります。

キャリアを見据えた4年間をサポートする仕組み

歴史文化学科(歴史)の入学生には、4年間の過ごし方のモデルを示した冊子「歴史生の4年間」を配布します。これには、学びの集大成である卒業論文の執筆と卒業後のキャリアを見据え、各学年でなすべきことが具体的に示されています。また、3年生対象のキャリア科目「歴史文化と社会」を開講するほか、1年生対象科目の「歴史文化基礎Ⅰ」・各学年対象の年度末企画においてキャリア講座を設け、段階に応じた支援をします。2014年度以来、教員を輩出していることも、歴史文化学科でのキャリア支援の成果です。



3年生キャリア科目 歴史文化と社会

歴史文化学科の教員や外部講師による就職活動の準備科目。インターンシップのためのエントリーシートの添削、グループディスカッションの実践練習や、プロの就活講師による授業など、役立つ多彩な講義を実施します。



みなさんの目標となる 素敵な先輩や卒業生がたくさんいます。

歴史文化学科の魅力は、座学の学びだけでなく、フィールドワークや実習などの授業を通して多方面にわたる学びができるという点です。私は、入学当初西洋史を中心に学びたいと考えていましたが、授業を通して、民俗学という学問を知り、なかでも生活に関わる宗教や信仰に興味を持つようになりました。たとえば「椎葉巡見プロジェクト」では実際に現地へ行って聞き書き調査のフィールドワークを行いました。「伝統文化の現場」という実習中心の授業では、伝統文化の継承者である先生方に直接ご指導いただき、歴史文化学科以外の学生には経験が難しいような貴重な機会を得ることができたと思います。また、学校行事や授業、プロジェクトを通して先生方との距離が近く、質問や相談などをしやすいため、日々、自分の学びになるきっかけをいただくことができます。同じ学問に興味を持つ仲間と、歴史文化について様々な視点から学びたいという方にはおすすめの学科だと思います。（4年 渡邊琴水 さん）



歴史文化学科では、自分の関心に応じて多様な授業を履修することができます。私自身、入学当初から西洋史に興味を持ち、西洋史系の授業を中心に履修していましたが、「日本の古文書も読めるようになりたい」という思いから、古文書解読の授業にも挑戦しました。大学院への進学を含め、入学前には想像もしなかった貴重な経験を積むことができ、学問の楽しさと奥深さを実感しています。また、歴史への情熱を共有しつつも、それぞれ異なる関心や視点を持つ同級生・先輩・後輩、個性豊かで魅力的な先生方や親身な助手の方々との出会いも、この学科ならではの魅力です。さまざまな人と関わりながら、自分の学びを深めたい方にとって、まさに理想的な環境だと思います！

（卒業生・大学院生活文化研究専攻
修士2年 八木原里奈 さん）

